

# PROFILE

## 安西尚彦

千葉大学大学院医学研究院薬理学

2016年1月1日付けで獨協医科大学医学部薬理学講座から母校である千葉大学大学院医学研究院薬理学教室に異動致しました、安西尚彦です。

実は獨協医科大学教授就任時の2011年に、日誌 Vol.73, No. 7・8号に一度 PROFILE を執筆させて頂いておりますので、今回はできるだけ重複を避けるようにさせていただきます。私は1965年東京都の生まれで、県立千葉高校を卒業後、千葉大学医学部に入学し1990年に卒業しました。卒後は千葉大学医学部附属病院第一内科に入局し、内科ローテートを1年半行った後、茨城県の水戸済生会総合病院内科にて2年間主に消化器内科を中心に研修を行いました。初期出張からの帰局後腎臓グループに所属し、腎生検および透析など腎臓内科のトレーニングを受けましたが、1994年に大学院に入学し、研究室のテーマである重金属性腎尿細管障害の研究を進めて行く中で、「病理的变化の先に生理的な変化が起こっているはずだ」という思いに至り、生理学に興味を持ち、福田康一郎教授（現名誉教授）の第二生理学教室におられた腎臓生理ご専門の河原克雅先生（当時同教室助教授）に師事することとなりました。その後半年で河原先生は北里大学教授として異動されたのに従い、私も平成7年7月に助手として北里大学医学部生理学に赴任致しましたが、既にチャンネルの分子クロニングは峠を越えた時期でもあり、今後の方向性を思案しておりましたところ、南仏ニースのCNRS分子細胞薬理学研究所所長を務めておられた Michel Lazdunski 博士の知遇を得て、同研究所に留学する機会を頂きました（最

近のテロ事件は大変悲しいものがございました）。世界でも屈指の観光地では研究に集中するのなかなか難しいものもございましたが、チャンネルなどの膜タンパク質はそれ自身以外の多くの分子と相互作用しユニットとして機能するというアイデアの元、酵母 two-hybrid (Y2H) 法による酸感受性イオンチャンネル ASIC の結合タンパク質探索を行い、結合タンパク質である PDZ タンパク質 CIPP の同定に成功致しました。時まさにプロテオームの時代に移行した時期と重なり、2001年に帰国後遠藤 仁教授（現名誉教授）の主宰された杏林大学医学部薬理学に所属し、金井好克教授（その後阪大教授）のご指導の下、Y2H法を杏林大学でも立ち上げますと、トランスポーター結合タンパク質の同定に続けて成功し、金井教授を研究代表者とする文部科学省特定領域研究「生体膜トランスポートソーム」の採択につながったと自負しております。

1995年に母校を離れ、2016年に教授として再び戻るまでの約20年、「こんなことやっていて、果たしてこの先研究を続けていけるのだろうか」と何度思ったことかわかりません。

ですが諦めずに続けて行けば、何とかなるんだな、と今になると感じます。「患者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉を残したのはドイツの名宰相ビスマルクだったかと思いますが、愚者は患者なりに、なんとか経験に学びつつ生きて行けるのだな、ということ若い方々は私の愚かな生き様を「歴史」として学んで頂くことで、むしろ意を強くして研究に従事して頂き、将来の生理学を始め日本の基礎医学研究を担って頂ければ

と思います。

略歴

平成 2 年 3 月 千葉大学医学部卒業 第一内科・医員  
平成 7 年 7 月 北里大学医学部生理学・助手  
平成 11 年 10 月 フランス国 CNRS 分子細胞薬理学研究所・留学

平成 13 年 8 月 杏林大学医学部薬理学・助手  
(平成 18 年・同講師, 平成 20 年・同准教授)  
平成 23 年 4 月 獨協医科大学医学部薬理学講座・主任教授  
平成 28 年 1 月 千葉大学大学院医学研究院薬理学・教授  
平成 28 年 1 月 獨協医科大学医学部・特任教授